

医学の中のドイツ語

科目責任者 能 登 慶 和
学年・学期 1 学年・3 学期

I. 前 文

本講義では、まず日本の医学におけるドイツの影響について、また主に明治期に使われていた医学におけるドイツ語および現在もいわゆる医師の隠語として定着したドイツ語について学び、日本の近代医学の発展とドイツ医学の関係について理解を深めることを目的とする。

II. 担当教員

准教授 能 登 慶 和 語学・人文教育部門

III. 一般学習目標

・日本とドイツの医学的な関係と、ドイツ語医学用語を理解する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 日本の近代医学とドイツ医学の関係を説明する。
- 2) ドイツ語に基づく医学用語とその背景を説明する。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイベート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	10	7	水	4	日本におけるドイツ医学の導入①	能 登 慶 和	3
2		14	水	4	日本におけるドイツ医学の導入①		
3		21	水	4	ドイツ医学用語①		
4		28	水	4	ドイツ医学用語②		
5	11	4	水	4	ドイツ医学用語③		
6		11	水	4	ドイツ医学用語④		
7		18	水	4	まとめ		

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

レポートで評価する (100%)。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

適宜プリントを配布する。

VIII. 質問への対応方法

問い合わせ先：ドイツ語教員室（基礎棟3階）月～木曜日 9：00～17：00

担当教員連絡先：能登 慶和 (y-noto@dokkyomed.ac.jp)

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	○
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートについてはLMSを通じて適宜フィードバックを行う。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事後学習（10分）：配布資料を復習し、要点をまとめること。

XII. コアカリ記号・番号

PR-03-01-01, RE-01-01-02